

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



N0. 52 2016年11月26日

目 次

会長より 1	臨床こぼれ話 13
学術局より 4	きこえのひとくちコラム 14
介護保険委員会主催研修会報告 9	各委員会・作業部会から 15
千葉県摂食嚥下ネットワーク 10	事務局より 19
リハビリテーション公開講座報告 11	理事会・委員会等議事録 20
施設紹介 12		

◇ 会長より ◇

* * 言語聴覚士として地域包括ケアシステムの構築に参画しよう * *

会長 吉田 浩滋

高齢になることは喜ばしいこと？

学生がある新聞のコラムを持ってきた。その内容は、介護が必要な状態になった高齢者が最後の10年間を特別養護老人ホーム等の施設で過ごす場合、約2千万円が必要となるというもので、このお金が子どもの退職金から工面されたとすると、子どもが高齢になり、介護が必要な状態になった時、親のために退職金を使い果たした子どもには施設を利用するための資力は残ってはいない、と未来を心配するものであった。読んだ後、人の寿命が延びることは、喜べない一面もあるのだな、と考え込んでしまった。

だが、果して皆がこのような事態になるのだろうか。誰しも、現世を離れ鬼籍に入る前には介護が必要な状態になるであろうが、健康寿命を延ばすことで、介護される期間は短縮できることを忘れてはいないだろうか。

この夏、徳島県上勝町に二泊三日の旅に出た。この町は「葉っぱビジネス」で知られる町で、「つまモノ」と呼ばれる和食を彩る葉っぱの販売で年間2億6千万円を稼ぐ。人口はたったの1,700名、高齢化率は50%を超え、ゴミの回収は2ヶ月に一回という都会では想像できない暮らし方が標準になっている町が、累計すると葉っぱだけで40億円近くを稼ぎ出していた。

私は、葉っぱビジネスに取り組む80歳代のご夫妻の自宅を訪ねた。奥さまは脳卒中で左片マヒであるが、ご主人が集めてきた葉っぱを、右手でパックに詰めている。市場動向や出荷が必要な葉っぱの指示がPC画面に映し出されると、ご主人が読み上げ、奥さんが何を何パック出荷すべきかを考える。発

症する前から葉っぱビジネスを行い、入院中も葉っぱビジネスに早く復帰したいと願い、早々に退院し、夫婦二人三脚で稼いでいる。自宅のバリアフリー化、徳島市内で暮らす息子夫婦の土地付き一戸建も、すべて葉っぱで稼ぎ出したお金で賄った。

頭が痛くなることがあるが、そんなときこそ、葉っぱの選別・パック作業にあたると気分も晴れるという。ここには「産業福祉」という言葉があり、施設でお世話を受けるのは、90歳代になり葉っぱビジネスから引退したときだそうで、80歳代は葉っぱビジネスがベテランの域に達したときだという。タブレットを持参し、どこにいても注文を受け、いつでも葉っぱの採集を行うことが可能な体制をとる高齢者は80人もいる。

なるほど、1,700人しかいない町だが、役割があってお金が得られる仕事があるのであれば、皆は元気だ。これこそ、健康寿命を延ばすモデルではないだろうか、と感心し、都会ではできることだと落胆もし、最終日は、「閏年は逆打ちの年、ご利益が二倍」という言葉に誘われ、お遍路装束になって八十八番大窪寺から歩き始めてみた。

地域が待っている、さあ、地域へ出かけよう

さて、お遍路装束を脱いで千葉に戻ると、「ときどき入院、ほぼ在宅」を合言葉に地域包括ケアシステムの構築が各地ですでに進んでいる。メールや電話で「地域包括ケアシステム」や「地域リハビリテーション活動支援事業」等の問い合わせがある。市町村の担当者から連絡があり、通いの場としてのサロンを開設したいのだが、そこに言語聴覚士を派遣するにはどうすればよいのでしょうか、と問われることも増えた。担当課としては、「通いの場にリハ職が来ると、住民にはリハ職が何をするのかということをわかつてもらえる良い機会になるのではないか」と問われることも増えた。担当課としては、「通いの場にリハ職が来ると、住民にはリハ職が何をするのかということをわかつてもらえる良い機会になるのではないか」と問われることも増えた。担当課としては、「通いの場にリハ職が来ると、住民にはリハ職が何をするのか」ということをわかつてもらえる良い機会になるのではないか。また、医療機関にいるリハ職が地域に出ることで、地域のインフォーマルサービスを知ることになり、双方に意義があるのではないか」と等々。

法律も次々に変わり、これからは地域の在宅医療・介護連携・認知症施策などの地域支援事業は、自治体と地域の医師会が中心となってすすめるようになってくる。地域の医療・介護関係者の連携協議会が作られたり、多職種連携による個別事例の検討を行う地域ケア会議の開催等、自治体が地域の医療・介護等の資源をコーディネートする機会が増えたりしている。

そのような中で、言語聴覚士への参加要請が増えてきている。県士会員の中にも、すでに自治体が立ち上げた連携会議や検討会に出席している方が増えている。報償費をだすところもあれば、ボランティア、つまり無料で力を貸してというところもある。

日本医師会も地域包括ケアシステムを意識し、かかりつけ医の機能充実を図るために、平成28年度から、「地域包括診療加算・地域包括診療科に係わるかかりつけ医研修会」を始めた。このなかには摂食嚥下も研修科目になるので、地域で摂食嚥下に取り組む医師が増えることが予測される。

このように、国だけではなく、医療・介護・自治体が2025年、団塊の世代と呼ばれる人々のすべてが後期高齢者になることを意識して動き出している。

そのなかで、皆さんにも地域から「あなたの出番です」という声がかかると思われます。これは、嫌だといつても地域の中核的な医療機関であれば、なおのこと避けて通れなくなるでしょう。もちろん、

「私の専門は〇〇ですから、ご遠慮します」ということも自由である。その方は、より専門職として技量を磨いていただくことになるが、果たして、それで良いのだろうか。2025年以降、恐らく、風景は大きく変わらんだろうが、その時のために、今できることは行っておきたい、と私は考えている。

県士会に参加されている皆様においても、このような地域の要請にこたえていただきたいと思いますし、まだ、声がかかっていないという方に、是非、お暮しの自治体、職場がある自治体の地域包括ケアにかかる動きには注目してくださるようにお願いいたします。具体的にはお近くの自治体のHP、千葉県庁のHPにアクセスし、「地域包括ケアシステム」で検索を行い、そこで見つかる情報に目を通していただくだけで十分です。

これは最後の戦後処理

ここで団塊の世代について少し考えたい。団塊の世代とは、太平洋戦争後のベビーブーム期に生まれた人々を指す。年代でいえば昭和22年から昭和24年までに生まれたとされる。この世代の一部は「金の卵」と呼ばれ、地方から集団就職列車に乗って都会に出てきた人もいれば、学園闘争のなかで全共闘として大学や街頭を占拠した世代もいる。実にさまざまな生き方をしてきた人々を含む世代であるが、日本の高度経済成長を支えたという点では共通であるし、誰も退職後の暮らしなど想像もせずに、首都圏に急造されたニュータウンという名の郊外住宅地に暮らし、家庭を作り、団塊の世代ジュニアと呼ばれる子どもたちを育てあげた。

そもそもニュータウンとはロンドンの人口急増に対応するために始まった事業で、本家イギリスのニュータウンは、経済活動がその地区内で行われるようにしたので、他の場所への通勤は稀であった。そこが日本のニュータウンと決定的に違うところで、日本は単なる郊外住宅地として作られたので、男性は退職すると、役割も活躍する場もなく地域に放り出されることになる。

私は、この方々=高度経済成長を支えた先達は、地域と切れて過ごす時間が長ければ長いほど、地域に暮らすことに困難があるのではないか、と考えている。そして、このような方々を生んだのは戦後の日本の仕組みであり、国が国策として若年労働者を地方から首都圏に引き入れたならば、その最後は国の責任にあり、その対応は国であると考える。

しかし、国はその多くを地方自治体に丸投げである。国が行うことはといえば、報酬単価の切り下げや、年金の値切り、自己負担の増額だけである。本当にこれでよいのか。国が首都圏に動員したのであれば、その方々の介護は国の責任でなされるべきではないのか。

そして、これは最後の戦後処理ではないか、と私は密かに考えている。

多くの県士会員の皆さん、是非、この方々の支援にその力の一部を提供いただけないだろうか。これは、皆さんの仕事にも役立つはずです。そして、戦後のさまざまな問題を曖昧にしているわが国を憂いて欲しい。是非、このことじっくりと考えて欲しい。



◇ 学術局より ◇

学術局 酒井 譲

1. 平成28年度第3回研修会のお知らせ

脳血管障害をテーマに、症例検討会を開催します。講師に船橋市立リハビリテーション病院の田中貴志先生をお招きし、症例へのご助言と、脳卒中関連の基礎的な脳画像の診かたについてご講演いただきます。また、症例検討会後には、皆様の臨床上の疑問点などを相談し合い、よりよい方法を模索するための情報交換会を行います。会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘い合わせの上、ご参加ください。

*日時：平成29年1月15日（日） 13：00～16：30

*会場：千葉市療育センター ふれあいの家 2階 教室1

*定員：50名（定員を超えましたら、ご連絡いたします）

*内容：I. 症例検討会 [13：00～14：00]

①日扇会第一病院 言語聴覚士 河合 徹也 先生

「廐用症候群と陳旧性脳梗塞により重度の嚥下障害を呈した症例」

②新八千代病院 言語聴覚士 大掛 晃子 先生

「回復期病棟における失語症症例に対する就労支援の経験

～復職が叶わなかったケースから～（仮）」

II. 講演・講演 [14：15～15：45]

「脳卒中関連の基礎的な脳画像の診かた」

船橋市立リハビリテーション病院

リハビリ専門医 田中 貴志 先生

III. 情報交換会 [16：00～16：30]

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧下さい。

2. 平成28年度第2回研修会報告

平成28年9月18日（日）に順天堂大学医学部附属浦安病院で平成28年度第2回研修会を開催しました。今回は、摂食嚥下障害委員会、地域リハビリ委員会と共に、講演と情報交換会を実施しました。参加者は68名（会員45名、会員外20名、学生3名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部をご紹介します。

研修会の概要

講演①：「嚥下リハビリ～実技を踏まえて～」

独立行政法人国立病院機構 千葉東病院

歯科医長 大塚 義顕 先生

講演②：「地域包括ケアにおける言語聴覚士の役割～八王子言語聴覚士ネットワークの取組み～」

医療法人社団永生会 在宅総合ケアセンター リハビリ統括管理部

言語聴覚士 山本 徹 先生

概要：講演①では、「嚥下リハビリ～実技を踏まえて～」というテーマで、独立行政法人国立病院機構 千葉東病院 歯科医長の大塚義顕先生をお招きました。大塚先生には、摂食嚥下障害のリハビリテーシ

ヨンについて、口唇の形態、舌の動き、頸の運動と食物形態との関係など、食べる機能の発達について、摂食嚥下障害の症状や重症度、診断・評価・食事再開評価の流れ、評価に対応する訓練法、摂食介助の基本的な考え方や評価、自助具を含む対応方法、訓練方法などについて、ご講演いただきました。基礎的な内容から、すぐに明日からでも実施できるように、動画も多く用いていただき、大変分かりやすく、実際の臨床にも即した内容であり、有意義なご講演となりました。

講演②では、「地域包括ケアにおける言語聴覚士の役割～八王子言語聴覚士ネットワークの取組み～」というテーマで医療法人社団永生会 在宅総合ケアセンター リハビリ統括管理部 言語聴覚士の山本徹先生をお招きしました。八王子言語聴覚士ネットワークとは、八王子とその近隣地域で働いている言語聴覚士の団体で、山本先生には、そのネットワークでの取組みを中心に、地域ケア会議の実際や個別ケースの紹介、言語聴覚士として、求められていること、主張していくべきこと、また今後の課題など、実際の取組みを踏まえながらご講演いただきました。今後、認知症高齢者の増加に伴い、地域包括ケアシステムの構築は重要であり、大変貴重な機会となりました。

アンケート結果 一部を抜粋してご紹介します。

①ご感想をお聞かせ下さい（回収：47名）

<講演①>

とても良かった：34名、普通：5名、期待していた内容と異なった：8名、未記入：0名

具体的に：

- ・ 小児の嚥下障害に対する講義を聞く機会がなかったため大変勉強になった。
- ・ 成人と共通する部分も多くあるため、活かせる内容がたくさんあった。
- ・ 遷延性意識障害者の嚥下と、重症心身障害児の関わりと重なる点が多いのでとても勉強になった。
- ・ 発達の視点から嚥下障害の改善を考えることを学べた。
- ・ 評価から、捕食・咀嚼練習まで、一連の流れで理解でき良かった。
- ・ とてもわかりやすい内容であった。
- ・ 細かく訓練法・手順がありわかりやすかった。
- ・ 口唇・頸・舌の訓練がわかりやすかった。
- ・ 映像がとてもわかりやすかった。
- ・ 学生であるが、実習等で活かしていきたいと思う。
- ・ 成人の講義についてだと思っていた。しかし臨床につながる内容であり、応用できそうな部分が多くった。
- ・ 成人の話が聞きたかったが、発達を知ることで摂食嚥下に対するアプローチの考え方方が広げられると感じたので良かった。

<講演②>

とても良かった：32名、普通：9名、期待していた内容と異なった：3名、未記入：3名

具体的に：

- ・ 言語聴覚士としての仕事が広がり、存在意義がわかつた。

- ・病院勤務でも地域の情報を知ることはとても大切であると思った。病院内だけでなく、地域に向けて働きかけをしていけたらという気持ちになった。
- ・自分に地域の視点が足りないことを知ることができ、病院内の生活より具体的でアイデアも求められる現場で興味深かった。
- ・具体的でわかりやすかった。参考になった。
- ・地域包括ケアシステムの方向性が明確に聞けて良かった。
- ・介護予防に関する活動についてはどのようにやれば良いかわからなかつたので、具体的に話が聞けて良かった。
- ・『地域包括ケア』はよく聞く単語であるが、具体的にはよく知らず、今回知ることができて良かった。
- ・自分の地域でも言語聴覚士が活躍できるような体制が整っていければ良いと思った。
- ・病院から出していく言語聴覚士を育てる環境や研修会、または発表資料の提供を県士会でしてほしい。

②今後の研修会や当会の活動について、ご意見等がありましたらお書きください。

(複数回答可)

形式：講演31名、症例発表9名、シンポジウム7名、その他1名(症例検討会)

内容：失語症 25名、高次脳機能障害27名、摂食・嚥下障害31名、音声・構音障害19名、
吃音5名、言語発達障害3名、聴覚障害1名、その他2名

具体的に：

- | | |
|--|----------------------------|
| ・訓練プログラムの立案 | ・高次脳機能障害の具体的なリハ手段 |
| ・失語症の教材 | ・復職を目標とした方の高次脳機能訓練 |
| ・軽症の方に対するリハビリ | ・高齢者に対する嚥下リハビリ |
| ・癌患者に対する嚥下リハビリ | ・地域包括ケア病棟における言語聴覚士の役割と活動内容 |
| ・失語症（進行性）、高次脳機能障害（半側空間無視等）の症例・研究発表 | |
| ・ケースカンファレンスを通して言語聴覚士の質を向上させる | |
| ・「学校支援」の情報（特別支援校、通級学級など）。教育委員会に対して言語聴覚士のできることをプロモーションすることも必要か（養成校も含めて） | |
| ・講演会について小児なら小児、成人なら成人と記載してほしい | |
| ・9～11月に講習会が偏っている | ・学生も気軽に参加することができて良かった |

研修会後の情報交換会

山本先生のご講演のあと、地域リハに関する情報交換会を行いました。参加者は山本先生を含め14名でした。事前に行ったアンケートの結果の報告のあと、県内で実際に介護予防事業に携わっている方から、その様子の紹介をしていただきました。口腔嚥下機能向上プログラムを行っているが、参加者は健康に意識の高い人が多く、本当に必要としている人の参加が少ない、徐々に参加者数が減ってきてしまう、嚥下障害などで地域のなかで困っている人に対しての相談窓口がない、などの悩みが聞かれました。山本先生からは、参加した自治会の役員の目が鍛えられ、町内で嚥下障害のある方を見つけて相談

に結びつくケースもあるので継続して啓発していくことが大事とのご助言をいただきました。今後、本会として ①介護予防に関わる人材の育成、②千葉P O S の人材バンクを整備活用し、地域にS Tを派遣できる環境づくり、③質の高いコンテンツの作成、④介護予防を必要とする方へ参加を促すアプローチや、効果の判定、⑤市町村レベルのS Tのネットワーク強化 などに取り組んでいく必要性があることを、参加者で確認しました。

※千葉県における言語聴覚士の介護予防事業についてのアンケート結果※

地域リハビリテーション委員会により、平成28年9月18日第2回研修会会場にて実施

(回答数：39名)

① 所属機関

地域リハ広域支援センター・地域リハ支援センター：6

地域リハ広域支援センター以外の医療機関：22

介護施設：4 行政機関：0 その他：2

② 言語聴覚士の経験年数 1～5年：19、6～10年：12、11～20年：7

③ 介護予防事業に興味がありますか。 あり：34 なし：4

④ 2025年を目途に構築を求められている地域包括ケアシステムを理解していますか。

十分理解している：0、理解している：2、知っている：15、よくわからない 19

聞いたことがない：2

⑤ 所属している地域で地域包括ケアシステムの構築にむけた、活動がありますか。

している：16、していない：4、よくわからない：18、無回答：1

⑥ 所属している病院・施設等では、介護予防事業に言語聴覚士が介入していますか。

している：6、していない：20、よく知らない：11、無回答：1

⑦ 「している」とお答えになった方にお聞きします。具体的にどのような介入をしているのか、お教えください。(複数回答可)

通所型介護予防事業（聴覚、口腔・嚥下機能の評価や予後予測）：3

訪問型介護予防事業（保健師と同行訪問し、嚥下や聴覚の評価、補聴器などの助言・指導）：2

介護予防普及啓発事業の介護予防教室など：2

地域住民向けの講座開催：4

地域ケア個別会議などへの参加：3

地域ケア推進会議などへの参加：2

各専門職向けの講座開催（失語症会話パートナーや、肺炎予防の取り組みなど）：0

その他：0

⑧ 派遣における業務形態など差支えがなければ、お教えください。

通常業務の一環として活動している：2

出張など、特別な派遣形態として活動している：1

休暇など、自分の時間を利用して活動している： 1

その他： 1

⑨頻度・時間帯・活動に要する時間・報酬など差し支えなければお教え下さい。

●頻度 一月あたり 1回： 1 2回： 1 2～3回： 1

●主に活動する時間帯 午前： 2 午後： 2 勤務時間外： 2

●活動に要する時間 一回あたり 1時間： 1 1. 5時間： 1 2時間： 1

●報酬 あり： 1 なし： 2 場合による： 1

⑩ 介護予防事業で言語聴覚士が活躍するためには、どのような体制が必要だと思われますか。（複数回答可）

金銭的な報酬が必要： 1 1

所属する施設の指示もしくは協力が必要： 2 3

活動する時間が勤務時間内で終了するような時間運用が必要： 1 6

市町村からの具体的な依頼やバックアップ体制が必要： 2 0

日本言語聴覚士協会や県士会等による介護予防についての教育研修体制が必要： 1 8

⑪ これからの中護予防において言語聴覚士ができることで何かしらのご意見・アイデアがありましたら、ご記入ください。

- ・地域での研修会や勉強会の開催
- ・誤嚥性肺炎の予防について開催
- ・住民運営の通いの場への関与について知りたい
- ・協会がどれほど必要性を考えているのか発信が少ないと思う。いつも他職種に比べとりくみが遅かったり、弱いと感じる。

3. 学術局より

[研修会を終えて]

今回の研修会では、言語聴覚士としてニーズの高い摂食嚥下障害について、また、今後システムの構築が急務である地域包括ケアについて取り上げ、ご講演いただきました。また、情報交換会も開催し、日々の臨床の問題意識を共感し合い、新たに得た知見もあったかと思います。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますよう願っております。

[研修会の症例発表者募集]

研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。当会ホームページにお問い合わせください。

4. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページにてご確認下さい。

担当：学術局 酒井 譲

メール：oyuzu-yuzu@hotmail.co.jp

◇ 平成28年度介護保険委員会主催研修会報告 ◇

平成28年9月25日（日）我孫子南近隣センターにて介護保険委員会主催「実技講習会 作って 食べて 口腔ケア」を開催いたしました。急性期病院から介護老人保健施設や訪問看護ステーションまで多様な所属先のST19名が参加いたしました。

第1部「自宅で作る嚥下食の実際」～おすすめの道具・材料・コツを知る～では、嚥下食の調理および試食を行いました。介護老人保健施設エスペーロ 管理栄養士 片山 美穂先生にご指導いただきながら恐る恐る調理開始です。

メニューは、市販のおかゆパック、惣菜の餃子、冷凍ほうれん草のお浸し、カップ豚汁です。介護食品でよく使用されているUDF区分4（かまなくてよい）のいわゆるミキサー食を作ります。

ご家庭で一人分のミキサー食を作るには、ミキサーよりも写真のようなブレンダーが適しています。付属の縦長カップも重要で、食材が散在せず手早くペースト状になります。

今回使用した凝固剤は、常温でも65度以上の温かいものでも、分量を変えることで自在に固さを調整できます。

出来上がりには少々違いはありましたが、実際に作ったことで「ミキサー食の難しさが実感できた」「摂食嚥下面だけで考えず、栄養はもちろんご家族の負担も考えなくてはいけないと改めて思いました」「手軽に作れる方法や、便利な調理器具を知る事が出来た」などの感想をいただき、生活場面からの嚥下食を考えることができました。

また、同じ材料でのUDF区分3や市販の嚥下食と食べ比べることによって「味の変化やテクスチャーの感じがわかった」「ペーストから形あるものに食形態が変わる事の嬉しさや、食感の違いを感じることができた」など、形態の違いによって食事の味わいがどのように変わるのかを実感することができました。



第2部「口腔ケアの基礎知識と実践」～おすすめの道具・介助方法や指導のコツを知る～では、東京歯科大学市川総合病院 歯科・口腔外科 主任歯科衛生士 大屋 朋子先生に、ご講演および口腔ケアの実技をご指導いただき、二人一組での相互実習を行いました。

ご講演では、うがいができる方への最新口腔ケア方法や、スポンジブラシの縦溝と横溝ではケア方法が変わることなど、何気なく行っている道具やケアの方法について知識が得られ

「ケア用品の役割、正しい使い方を知る事ができた」「口腔ケアのポイントを詳細にスライドにまとめて下さっていて、あとから見直しても活用できそう」など、すぐに役立つ内容が盛りだくさんでした。

また、口腔ケアを面倒だと思っていたり、拒否される方への対応について、大屋先生の豊富なご経験をお話しいただき、

「目的をしっかりと持つことで口の健康を保ち、声かけと分かりやすい説明で、ご本人の意識が変わる事をサポートしていきたい」「在宅介護では、家族が一番手を抜きやすい所だが、必要性をもっと説明していきたい」など、具体的な関わり方のヒントをいただきました。

実技指導と相互実習では、ケア方法を直接ご指導していただいたり、質問しながら行い、「される側の気持ちが実感できた」「オブラートをつけて実習したのが分かりやすかった」「毎日やっている事も1つ1つ振り返って勉強になった」など、改めて患者様・利用者様の立場にたった臨床を意識することができました。

今回、初めて実習形式の実技講習会を開催いたしました。参加者全員の方がアンケートにお答えくださいり、全員が「とても良かった」と評価してくださいました。また、調理室の都合により少人数制となりましたが、かえって質疑応答が活発となり、休憩時間には交流も進みネットワーク作りができました。ご好評のため、第2弾開催も検討しております。今後とも、皆さまのご参加をお待ちしております。

(介護保険委員会)



◇ 平成28年度第1回千葉県摂食嚥下ネットワーク ◇

平成28年8月31日（水）、きららホール（FACEビル6階）において、「第1回千葉県摂食嚥下ネットワーク」が開催されました。聖隸佐倉市民病院の津田豪太先生のお声かけにより、千葉県医師会、千葉県歯科医師会、千葉県看護協会、千葉県歯科衛生士会、千葉県介護支援専門員協議会、千葉県訪問看護ステーション連絡協議会、千葉県摂食・嚥下障害看護認定看護師連絡会、千葉県言語聴覚士会、また、摂食嚥下障害に関わる先生方のご協力により、千葉県内で初めて、摂食嚥下関連の研究会が立ち上りました。当日は、平日の夜であったにも関わらず、218名の参加があり、その中でも言語聴覚士は、58名と最も多くの参加がありました。第1回はシンポジウム形式で、「私たちができること、必要としていること」というテーマで、歯科医師、管理栄養士、ケアマネージャー、言語聴覚士、歯科衛生士、看護師の6名シンポジストから、それぞれの職種の立場でお話いただきました。当会からは、緑

が丘訪問看護ステーションの勝又 綾子先生が、言語聴覚士のこと、他職種にお願いしたいことをお話し下さいました。今回、言語聴覚士以外の多くの職種のお話を聞くことができ、ネットワークの観点からも大変有意義な内容でした。当日のアンケートの結果をふまえ、今後の会の方向性が定まっていくかとは思いますが、このように多くの職種が一堂に会する機会は貴重です。今、地域におけるネットワークの構築は急務であり、今後も活用していただければと思います。

酒井 譲

◎○◎リハビリテーション公開講座実行委員会◎○◎

第10回リハビリテーション公開講座報告

平成28年7月18日（月祝）、市原市勤労会館 you ホールにおいて、千葉県言語聴覚士会、千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会、千葉県リハ医学懇話会の共催による「第10回リハビリテーション公開講座」が開催されました。当日は晴天に恵まれ、56名の方々がご来場くださいました。『続けよう！いきいき健康づくり』というメインテーマのもと、講演と体験の2部構成で行いました。千葉リハビリテーションセンターセンター長の吉永勝訓先生による講演『こうやって健康寿命を延ばそう！』に続き、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会代表が職能や体験内容の説明を行いました。その後言語聴覚士（以下ST）、理学療法士、作業療法士がそれぞれの会場に分かれ、専門性を活かした体験コーナーを設置しました。当会では『肺炎を予防しよう～あなたの嚥下力は？』と題し、簡易検査ブース、相談窓口、県士会紹介コーナーを設け、まず参加者と1対1で①単音節の繰り返し検査、②発声持続時間検査、③水飲みテスト、④反復唾液嚥下テストを行いました。そこで平均値に満たない方や、「むせる」などの症状が見られた方、「普段からむせる」「肺炎で入院した事がある」等の訴えのある方には、相談窓口で詳しくお話しを伺い、嚥下体操や食事時の注意点、市内病院への受診案内等を行いました。体験終了後は本会の賛助会員である三和化学株式会社の提供によるトロミ剤や嚥下食のサンプル等をお持ち帰り頂き、より関心を深めて頂くことができました。参加者のアンケートは回収率80%であり、「体験ブースで行ったことを続けていく」「嚥下についてのアドバイスが良かった」等のご意見を多数頂き、健康維持や介護予防、嚥下機能低下を防ぐ意識の高まりが感じられました。今回の事業を通し、参加者ご自身やご家族の嚥下機能や食事について、再考する機会となれば幸いです。日ごろは実際に障害をお持ちの方々と接する機会が多い私達ですが、今回のような事業を計画・実践することで、健康維持や介護予防に関心のある一般の方々と関わることができます。摂食嚥下やコミュニケーション能力の分野において、その機能を分かり易く説明し、低下を防ぐ方法を紹介することは、STの職能が発揮される場と言えます。

微力ながら実行委員長を務めさせて頂きましたが、実行委員の皆様や当日ボランティアの皆様に、心より感謝申し上げます。

(千葉県循環器病センター 杉崎 晓美)





施 設 紹 介



国保旭中央病院 (旭市) ······ 宇井 円

当院は、旭市にある千葉県東部および茨城県南部を含む半径30km圏(人口約100万人)を診療圏としており、香取海匝医療圏で唯一の高度急性期医療を担う病院です。ベッド数は989床、標榜科目は36科です。S Tは診療技術局リハビリテーション科及び小児科に在籍しています。

リハビリテーション科では6名で失語症、構音障害、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害を対象に評価や機能向上を目的とした言語聴覚療法を行っており、入院・外来リハビリ、付属の介護老人保健施設業務、香取・海匝地域リハビリテーション広域支援センター事業を行っています。

小児科では3名で発達に合わせて、コミュニケーションをより豊かなものにするために、必要に応じて、検査・指導・助言などを行っており、外来対応を主な業務とする他、市の3歳児健診時の発達相談やことばの相談、児童発達支援事業施設や特別支援学校への施設支援を実施しています。医師や臨床心理士と協働して、言語発達障害、発達障害、構音障害、吃音、聴覚障害のお子さんを支援しています。幼児期、児童期の支援では、地域ネットワークとして保健師、保育士、教員、支援員等との連携が不可欠であり、一昨年からは小学校の言葉の教室の先生方との勉強会を通じて、知識や技術の共有、顔の見える連携を継続しているところです。講師依頼も積極的に受け付けています。今後も、当該地域において療育の一助を担えるよう研鑽していきたいと思います。

我孫子ロイヤルケアセンター (我孫子市) ······ 相川 陽子

当施設はIMSグループのひとつで、平成10年に我孫子市に開設された介護老人保健施設です。田んぼと利根川にはさまれたのどかな環境で、晴れた日には訓練室から筑波山が見え、その景色は利用者様にも好評です。

定員は入所150床(うち認知症専門棟50床)、通所50名/日、在宅復帰率42.9%の在宅復帰支援型施設です。リハビリスタッフはPT7名、OT4名、ST1名で構成され、利用者様の「その人らしい生活」を大切にした在宅復帰支援を行なっています。また、その一方で市内の施設では数少ないターミナルケアを実施しています。STでは失語症、構音障害、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害、認知症を対象とした評価・訓練のほか、PT・OTとともに集団リハビリを実施しています。

介護保険では経口摂取支援が重視されており、改定の度に見直しが行われています。当施設でも摂食・嚥下障害を有する方は多く、多職種連携による経口維持支援の充実を図っています。ミールラウンド、多職種会議を毎月実施して口から食べる楽しみを続けていただけるよう支援しています。

最近は地域との連携のニーズも高くなってきており、定期的な認知症カフェの開催や介護予防講座の講師など地域とのつながりを大切にした取り組みを始めています。今後も地域の皆様のニーズにこたえられるようスタッフ一丸となって精進していきます。

臨床こぼれ話

★★★誰もが最初は初心者である ★★★

国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科
内田 信也

私は現在、言語聴覚士養成校で教員をしております。このような立場として日々、学生に対し、さも患者の何もかもが分かったような顔をしていることが少なからずあろうかと思っています。しかし、私にも実習生と呼ばれた時期、新人と呼ばれた青い時期があります。

学外施設での臨床実習では、初日に SLTA を取らせて頂く機会を頂戴しました。今でこそ、このような書き方をしますが、当時の私にしてみれば、「え！ 初日からいきなり検査！！！」というのが本音であったことでしょう。そして、案の定、失敗しました。冒頭、聞く側面で刺激提示に失敗し、焦って繰り返しをしてしまったのです。即座に、「2回刺激！」と注意を受けたことは、今だに脳裏から離れません。

また、臨床に出てから、特に記憶に鮮明に焼き付いている事柄の一つは、頸部 ROM 訓練をやっていたら、患者が意識消失してしまったことです。びっくりしました。最悪の事態が頭をよぎりました。すぐに院内の救急コールをかけ、看護師や医師が部屋に集まってきたと同時に、患者の意識が戻り、事なきを得ました。後で、主治医と原因について話を聞いて、推測としては頸動脈の狭窄があったのではないか、ということに落ち着きました。

食道入口部開大不全の患者に、バルーン拡張を初めて実施する時の緊張感も、明確に思い出されます。何せ、誰かに対して練習できる事柄ではないので、頭の中でメンタルトレーニングを何度も行い、初回に臨みました。感覚低下が強かったので、それほど患者は苦しむことなく、するするとカテーテルを挿入していくことが出来ました。そのうち技能的にも習熟し、ある日、見学にいらした方がいて、一緒に病室に行って、さっとバルーン拡張をし、その場面を見て頂いたのですが、訓練後、「なんか、ER（当時、流行っていたアメリカの医療ドラマ）みたいです！」と仰っていました。もしかしたら、ドヤ顔をしていたのかもしれません。が、もちろん、私にはド緊張しながら臨んだ最初の施行があったわけです。

私が ST となって最初に所属した機関ですが、嚥下障害のリハビリテーションに先駆的に取り組んで名を上げた病院の一つです。私が1年目の年に、VF をやることとなり、それに立ち合わせて頂きましたが、まあ、てんやわんやのドタバタでした。確かに、1時間半くらいの時間がかかったと思います。その数年後には、約30分で4例をさっと検査するようになりました。この頃、他機関から見学にいらっしゃる方々は、その手際の良さに驚かれていました。が、その根底には1時間半のドタバタ劇があり、その後、様々な改良と経験を重ねたという苦心の過程があつてのことであることを私は知っています。

失敗・ミスは許容されるものではありません。また、失敗・ミスが生じないようにすべき事前の努力というものもあります。しかし、誰もが最初は初心者であったということを、時々思い返すということ

は、若人の成長を見守る上でも、そして、経験者がさらなる成長を遂げる上でも必要なことでしょう。失敗・ミスには、多くの場合、苦い記憶が共に刻まれていることと思います。自身も初心者であったということを思い返すのは、ともすれば、自身の苦い記憶と向き合うことになるでしょう。しかし、時に、そのような苦い記憶にも向き合う必要があるのではなかろうかということを、自分自身への戒めとして、ここに記したいと思います。

三三 きこえに関するひとくちコラム 三三

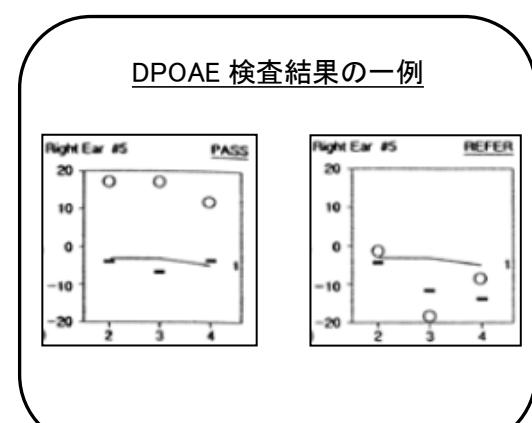
0AE(耳音響放射)検査

今回は被験者の応答を必要としない他覚的聴力検査のひとつである、0AEについてお伝えします。

【検査内容・方法】耳音響放射とは、内耳(蝸牛)の外有毛細胞の機械的な伸縮により、増強した基底板の振動が入力音と逆の経路をたどり、音として外耳に放射された現象です。検査は対象とする耳にイヤホンとマイクロホンを内蔵したプローブを挿入し、音刺激を入力して耳音響放射を測定します。覚醒下でも可能ですが、被験者の体動や発声、荒い呼吸音などが支障となることがあるので注意が必要です。また0AEは内耳由来の音響反応ですが、伝音系の中耳や外耳に障害があると内耳機能が正常でも0AEが検出できないことがあるので、確認が必要です。

【種類】0AEには3種類あります。クリックや短音刺激により誘発される誘発耳音響放射(TEOAE)、周波数の異なる2つの純音で同時に刺激したときの歪成分を記録する歪成分耳音響放射(DPOAE)、音がないときにみられる自発耳音響放射(SOAE)です。

【臨床応用】①新生児聴覚スクリーニングでの利用；簡便で機器も比較的安いため広く利用されていますが、内耳の機能を測るだけなので、後迷路性難聴を見逃す可能性があります。②障害部位の診断のための利用；内耳性難聴か後迷路性難聴かの鑑別が可能です。③他覚的聴覚検査としての利用；心因性難聴や詐聴の診断に有効です。



～聴覚障害委員会～



◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎○◎職能部◎○◎

ワーク＆ライフバランスコラム ～仕事と〇〇の両立～

「頭と体の健康のバランス」

君津中央病院 リハビリテーション科
金子 義信

「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」ということばがあります。40代半ば近くになると、体のあちこちに黄色信号が点灯します。もともと体を動かすことは好きだったのですが、STの仕事を初めてから日中は訓練室の中で過ごすことが多くなり、日中の活動量はがくんと減りました。車通勤なので、歩くことも少なくて職場の駐車場の往復くらいになっていました。

そこで、一念発起して体を動かすためにトレーニングジムに通うことにしました。調べてみると私が住んでいる周辺には大きなジムはなくて、ようやく見つけた一軒家を改装したような古いジムに通うことにしました。冷暖房もなくて夏は大汗をかきながら筋トレをしています。

もともと太めだった体重を3年で10kgほど減らしました。ちょっとした階段の上り下りが楽になったり、疲れにくくなつたかなあと感じるようになりました。また、人間ドックの結果も目に見えて変化がありました。夜もぐっすり、朝もすっきり目が覚めることが多いです。

私は小児対象の言語訓練をしているのですが、ジムには職業も年齢も異なる方がいらしています。小さいジムなので会員さん同士の会話も多く、自分の仕事について話すこともあり「そんな仕事があるんだね」と「言語聴覚士」という仕事を紹介する良い機会にもなっています（職能部の啓発活動になっているのではないか（笑））。

これからも子どもたちと関わっていくためには、体力をしっかりとつけて元気に対応していきたいなと思っています。もちろん新しい知識も身につけなくてはですが！

仕事が終わってからの時間、お休みの日の時間、皆さんはどのように過ごしていらっしゃいますか。今までのコラムでは、職能部の部員が交代でコラムを書いていましたが、今後はいろいろな方に「仕事と〇〇の両立」をテーマに日々の生活を語っていただこうと思います。もし依頼が来た際には快くお引き受けいただけたらと思います！！！

☆★☆「言語聴覚士」が働く施設見学会 開催報告☆★☆

今年度、言語聴覚士の啓発活動の一つとして、言語聴覚士を目指す方に病院や施設を実際に見学してもらおうという企画を7月下旬から8月上旬に実施いたしました。今回は高校生を対象とした施設見学会を開催いたしました。

5つの施設に合計で8名の高校生が参加していただきました。見学していただいた高校生にアンケートを実施しました。4名の方からの返答がありましたので、まとめてご紹介したいと思います。

1. 参加者の学年・性別

学年

高校2年生	2
高校3年生	2

性別

男性	0
女性	4

2. 言語聴覚士のことを知ったきっかけ

家族・親類のお見舞いのとき	0
自分がお世話になったとき	0
インターネット	1
テレビ・ドラマ・映画	0
本・小説・マンガ	0
先生や家族、友人の紹介	0
今回の見学会で初めて知った	2
その他	1

3. 見学会を知ったきっかけ

学校の掲示板	2
先生からの紹介	1
家族・友人からの紹介	1
ホームページ・ツイッター	0
その他	0

4. 見学会の開催時期・申し込みなどについて

実施時期

もっと早い時期が良い	0
ちょうど良い	4
もっと遅い時期が良い	0

実施時間

長かった	0
ちょうど良い	3
短かった	1

申込み手続き

わかりやすかった	4
わかりづらかった	0



5. 見学会の内容についてお聞かせください。

言語聴覚士の仕事内容の説明

大変満足	4
やや満足	0
普通	0
やや不満	0
大変不満	0

説明の時間

もっと聞きたかった	2
ちょうど良い	2
長かった	0

施設見学はいかがでしたか？

大変満足	4
やや満足	0
普通	0
やや不満	0
大変不満	0



6. 見学内容や言語聴覚士について、ご意見やご感想等ありましたらお願ひします。

とても貴重な体験ができてよかったです。一か所の病院だけでなく複数参加したいと思うのでまたこういった機会を作って欲しいと思いました。

最初行った時にわからないことばかりで、不安だったけど、体験などをして、言語聴覚士の仕事がとても大変だなと思いました。 ありがとうございました。

言語聴覚士についてよく分からなかつたのですが、今回の説明を聞いてよくわかりました。 ありがとうございます！ 進路の視野が広がりました。

回答してくださった高校生の方々には、今回の見学会は好評だったようです。この見学会をきっかけに、言語聴覚士の仕事に興味を持っていただいたのではないかと思います。

実際に高校生に対応してくださった先生方からも「熱心に話を聞いてくれて、興味を持ってくれたようだ」という感想もきかれました。

初めての試みで、対応してくださった言語聴覚士の先生方や高校の進路指導の先生方との連絡が不十分であったり、ご迷惑をおかけした点も多々あったかと思います。今後さらに充実した見学会になるように検討を重ねていきたいと思います。また来年度以降は、高校生だけではなく、大学生、社会人を対象とした見学会も計画していこうと思います。

少しでも多くの方に、言語聴覚士という職業に興味を持っていただき、私たちの仲間に加わっていただけるよう職能部としても様々な機会を作りたいと考えておりますので、会員のみなさまのご協力をお願ひいたします。

職能部 金子 義信

◎〇〇災害リハビリテーション委員会〇〇〇

「9都県市合同防災訓練参加記」

災害リハビリテーション委員会 平山 淳一

去る8月27日（土）、第37回九都県市合同防災訓練が行われました。これは、「首都直下地震」や「東海地震」など広範囲への被害影響が予想される地震に対し、被害を最小限に食い止めるため、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、千葉市、横浜市、川崎市、さいたま市、相模原市の1都3県5市による合同防災訓練です。毎年、8月30日～9月5日の防災週間を考慮した適切な日に合同で訓練が実施されています。今年度の千葉県での訓練は、茂原市富士見公園にて行われました。千葉県知事の「災害に強い千葉県を皆で作ろう！」という熱い挨拶を皮切りに、自衛隊や警察、消防、行政機関、医療関連団体、水道会社、電気会社、ボランティア団体、近隣住民等々、数千人の方々が参加し、ヘリコプターや重機を用いた救助訓練や各種ブース運営などが行われる大規模なものとなりました。

昨年度から組織されましたC-RAT（千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会）として、今回初めて合同防災訓練へ参加し、避難所運営に関して、ダンボールベッドの展示やエコノミー症候群予防体操の実演、新聞紙で作る保温用の簡易靴下実演などのブースを開きました。当会としては、高齢者や嚥下障害者に着眼し、水だけで作れる非常食用お粥などの展示・試食ブースを開きました。当ブースには、ひっきりなしに行政関係や消防関係、医療関係、一般住民など多数の方々が来場され、用意していた試食及び配布用サンプルは全て売り切れとなる盛況振り（？）でした。非常食用お粥を試食した方からは、「思っていたより美味しい」「うちのおばあちゃん用に準備しておきたい」という声が聞かれ、市議会議員からは「災害弱者向けにこういった物の備蓄は必要だね」という感想を頂きました。災害に対して事前に高齢者・嚥下障害者用の非常食も準備していただきたいという想いを、多くの関係者に伝える事が出来たことは、大きな収穫となったと思います。



今回初めての参加という事で勝手がわからず、準備から当日のブース運営までどうなる事か心配の連続でしたが、終わってみると非常に沢山の方々に災害時の嚥下障害者への対応やエコノミー症候群対策などを伝える事ができ、災害リハビリテーションという活動についても広く知って頂く良い機会となりました。

◇ 事務局より ◇

1. 入会のお説明

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらっしゃいましたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています ~ 変更届についてのお願い ~

最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付をしております。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ (敬称略) 会員数：正会員 423名・準会員 20名・賛助会員:7団体

(平成28年10月23日 理事会承認分まで)

…正会員…

松本 羽衣 (流山中央病院)	奥岳 洋子 (塩田記念病院)
海老沢 恵理 (らいおんハート整形外科リハビリクリニック)	木間 亜希子 (おゆみの中央病院)
岩間 理紗 (旭神経内科リハビリテーション病院)	飯村 知久 (東京歯科大学市川総合病院)
横井 悠子 (松戸リハビリテーション病院)	田口 恵梨 (安房地域医療センター)
手塚 彩乃 (松戸リハビリテーション病院)	根本 雅也 (袖ヶ浦さつき台病院)
高橋 香緒理 (松戸リハビリテーション病院)	田中 麻衣 (松戸リハビリテーション病院)
橋本 涼子 (千葉県こども病院)	田村 奈美 (東京湾岸リハビリテーション病院)
古座 みち子 (東邦大学医療センター佐倉病院)	村井 真奈 (茂原中央病院)
鈴木 弘子 (千葉大学医学部附属病院)	彦田 真典 (東京歯科大学市川総合病院)
安島 明子 (旭神経内科リハビリテーション病院)	城之内 文子 (流山市幼児ことばの相談室)
大垣 徳子 (流山市児童発達支援センターつばさ)	佐々木 香緒里 (国際医療福祉大学)
渡邊 由理 (市川市リハビリテーション病院)	酒匂 美奈 (松戸リハビリテーション病院)
坂口 紗織 (松戸リハビリテーション病院)	松崎 裕統 (松戸リハビリテーション病院)
山口 沙希子 (千葉みなとリハビリテーション病院)	高橋 純子 (千葉県千葉リハビリテーションセンター)
伊賀 健 (袖ヶ浦さつき台病院)	齊藤 佐智子 (新東京病院)
田上 雅詞 (セコメディック病院)	木下 真琴 (放課後等デイサービスにじ今井)
坂本 和哉 (松戸市立福祉医療センター東松戸病院)	末吉 正典 (塩田病院)

(届出順)

年会費納入のお願い

*当会の年会費は前納制となっております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

正会員 3500円 準会員 3000円

賛助会員 1口5000円 (個人1口以上、団体2口以上でお願いします)

未納分について

*本年度は未納ゼロをめざします。平成25年度・26年度・27年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、未納分を合計した金額にてお早めにお支払ください。
本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。
なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。(例:正会員の場合: 3500円×2=7000円)
納入済かどうかご不明な場合や、その他年会費に関するご質問がございましたら、県士会メールもしくは下記までご連絡下さい。

◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

(記号番号) 00120-6-39932

(加入者名) 一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

(銀行名) ゆうちょ銀行 (金融機関コード) 9900 (店番) 019

(店名) ○一九(ゼロイチキュウ店)

(預金種目) 当座 (口座番号) 0039932

(受取人名) イッパンシャダンホウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落し

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

《年会費に関するお問合せ先》

東邦大学医療センター佐倉病院 リハビリテーション部

治田(はるた) 寛之 043-462-8811(代)

◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成28年度 理事会

《第4回》

日時: 2016年6月26日(日) 13時00分~15時30分 場所: 黒砂公民館 和室

出席者: 吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎(理事9名)、宇野(監事1名)、今泉(書記1名)

1. 協議事項: ・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・後援依頼について ・平成29年度地域医療総合確保基金について ・リハビリテーション公開講座について ・摂食嚥下関連リーフレットについて ・聴覚障害委員会主催研修会について ・局員・委員一覧について ・介護保険委員会主催研修会について ・平成28年度第1回研修会アンケート結果について ・平成28年度生涯学習プログラムの開催について ・ニュースNo51について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第5回》

日時：2016年7月24日（日）13時00分～15時30分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、平山、宮崎（理事8名）、宮下（監事1名）、宮坂（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・9都県市合同防災訓練について ・介護保険委員会主催研修会について ・リハビリテーション公開講座について ・地域リハ人材育成事業について ・新生児聴覚スクリーニンググリーフレットについて ・小児言語委員会情報交換会について ・千葉県摂食嚥下ネットワークについて ・平成28年度第2回および第3回研修会について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第6回》

日時：2016年8月21日（日）13時00分～15時30分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事9名）、宇野（監事1名）、星野（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・9都県市合同防災訓練について ・都道府県士会基礎情報について ・リハビリテーション公開講座について ・平成28年度第3回研修会について ・千葉県摂食嚥下ネットワーク第1回研修会について ・理事選挙について ・進行性失語研修会の講師謝礼について ・認知症専門職研修基礎コースの終了報告および応用コースについて ・会計ソフト更新について ・後援依頼について 小児言語委員会の情報交換会について

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・ニュースNo51返品について

《第7回》

日時：2016年9月11日（日）13時00分～15時30分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事9名）、宮下（監事1名）、井上（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・ニュースNo52構成案について ・9都県市合同防災訓練報告について ・ホームページの定期点検について ・千葉県摂食嚥下ネットワークについて ・千葉県地域リハビリテーション協議会について ・千葉POS介護予防専門職育成研修について ・県士会未入会リストについて ・脳卒中ノートの作成について ・平成28年度関係団体忘年会について ・千葉県口腔機能管理支援事業について

2. 報告事項：・郵便物回覧

◆ 平成28年度 職能部会議

《第1回》日時：2016年6月4日（土）10時00分～12時00分 場所：黒砂公民館

出席者：高田、小杉、徳山、宮崎、金子

・職場環境実態調査について ・高校生向け職場見学会実施について ・「ワーク＆ライフバランスコラム」について

◆ 平成28年度 学術局会議

《第2回》日時：2016年7月24日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花

出席者：志賀、嶋田、杉崎、關口、露崎、小野、酒井

・平成28年度学術局員の役割分担について ・平成28年度第2回研修会について ・平成28年度第3回研修会について ・その他

《第3回》日時：2016年9月18日（日）17時00分～17時30分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：志賀、嶋田、杉崎、關口、露崎、小野、酒井

- ・平成28年度第2回研修会反省
- ・平成28年度第3回研修会について
- ・平成29年度第1回研修会について
- ・次年度計画案作成について
- ・報告集作成について
- ・その他

◆ 平成28年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修会実行委員会

《第3回》日時：2016年6月28日（火）19時00分～20時00分 場所：船橋市中央保健センター 小会議室
出席者：小野、勝又

- ・今年度研修会について
- ・地域リーダー会議報告

《第4回》日時：2016年8月4日（木）19時00分～20時30分 場所：船橋市中央保健センター 小会議室
出席者：S T士会からの出席者なし

- ・今年度研修会について
- ・スケジュールの確認

《第5回》日時：2016年9月8日（木）19時00分～20時30分 場所：船橋市中央保健センター 小会議室
出席者：小野、勝又

- ・今年度研修会について
- ・スケジュールの確認

《第6回》日時：2016年10月6日（木）19時00分～20時30分 場所：船橋市中央保健センター 小会議室
出席者：小野、勝又

- ・今年度研修会について
- ・役割分担について
- ・スケジュールの確認
- ・準備物品確認

◆ 平成28年度 地域リハビリテーション委員会

《第2回》日時：2016年9月18日（日）17時30分～18時30分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院
出席者：平澤、藤井、岩本、吉田、小野

- ・介護予防推進に資する専門職育成研修について

◆ 平成28年度 生涯学習プログラム作業部会

《第1回》日時：2016年6月19日（日）10時00分～11時00分 場所：千葉市療育センター 第3会議室
出席者：斎藤、西本、長尾、佐藤、鈴木、阿部

- ・前年度の課題について
- ・今年度の開催要項
- ・案内資料
- ・役割分担について

◆ 平成28年度 第10回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第5回》日時：2016年6月6日（月）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所
出席者：杉崎、岩本、佐野 千葉県理学療法士会3名 千葉県作業療法士会1名

- ・ちらし配布
- ・会場準備
- ・タイムスケジュール
- ・会計
- ・各士会体験コーナー
- ・配布資料

《第6回》日時：2016年9月2日（金）19時00分～20時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所
出席者：杉崎、岩本、吉田 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会2名

- ・第10回の反省
- ・アンケート結果
- ・収支報告
- ・今後について

◆ 平成28年度 小児言語委員会

《第1回》日時：2016年6月5日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉リハビリテーションセンター
出席者：藤田、廣瀬、木村、野宮、金子

- ・今年度の活動方針
- ・平成28年度情報交換会について
- ・平成29年度活動方針検討
- ・小児施設アンケートについて

《第2回》日時：2016年9月11日（日）10時00分～12時00分 場所：千葉リハビリテーションセンター
出席者：藤田、廣瀬、木村、野宮、金子

- ・平成28年度情報交換会準備、案内発送
- ・平成29年度活動方針の検討

◆ 平成28年度 介護保険委員会

《第2回》日時：2016年8月3日（水）19時00分～22時00分 場所：言語デイサービス ミカタ船橋

出席者：松本、牛山、木村、斎藤、末藤、山崎、小野

- ・研修会について
- ・役割分担について
- ・スケジュールの確認
- ・準備物品確認

《第3回》日時：2016年8月16日（火）19時00分～20時30分 場所：言語デイサービス ミカタ船橋

出席者：松本、木村、斎藤、末藤、山崎

- ・研修会について
- ・役割分担について
- ・スケジュールの確認
- ・準備物品確認

《第4回》日時：2016年8月26日（金）18時00分～21時00分 場所：我孫子南近隣センター（けやきプラザ）出席者：松本、牛山、木村、斎藤、末藤、山崎、小野

- ・会場確認
- ・調理内容、手順の確認

《第5回》日時：2016年9月25日（日）16時00分～17時00分 場所：我孫子南近隣センター（けやきプラザ）出席者：松本、牛山、木村、斎藤、末藤、山崎、小野

- ・研修会の反省
- ・来年度委員について
- ・来年度活動方針

◆ 平成28年度 摂食嚥下障害委員会

《第1回》日時：2016年7月10日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：近藤、長良、渡邊、酒井

・委員長代理の選定について

- ・平成28年度第2回研修会について
- ・摂食嚥下関連リーフレットについて
- ・委員会開催日程について

《第2回》日時：2016年9月18日（日）17時30分～18時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：遠藤、渡邊、酒井

- ・平成28年度第2回研修会反省
- ・次年度計画案について
- ・その他

◆ 平成28年度 聴覚障害委員会

《第1回》日時：2016年5月1日（日）10時00分～11時00分 場所：菜の花プラザ

出席者：常田、高橋、猪野、黒谷、大壺、石渡、吉田

- ・コラムの内容
- ・研修会について

《第2回》日時：2016年7月10日（日）10時00分～12時00分 場所：菜の花プラザ

出席者：高橋、猪野、黒谷、大壺、石渡、吉田

- ・研修会について
- ・手話言語条例について

◆平成28年度高次脳機能障害委員会

《第1回》日時：2016年5月25日（水）19時30分～21時00分 場所：東邦大学医療センター佐倉病院

出席者：治田、鈴木、平山、竜崎、松田

- ・進行性失語研修会について
- ・日時、場所、申込方法について

《第2回》日時：2016年8月17日（水）19時30分～21時00分 場所：西船橋 カフェカプリ

出席者：治田、鈴木、平山、竜崎、松田

- ・進行性失語研修会について
- ・申込み状況、準備物品、タイムスケジュールについて

《第3回》日時：2016年10月5日（水）19時30分～21時00分 場所：西船橋 カフェカプリ

- ・進行性失語研修会について
- ・申込み状況、準備物品、当日役割について
- ・第2回統計研修会について



（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

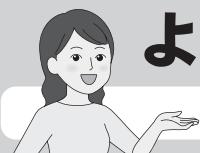
ご協力
お願いします

日本失語症協議会 応援セール

エスコアールの失語症・成人関連製品をご注文の際に日本失語症協議会(03-5335-9756)経由でお申し込みいただくと、特別割引価格でお求めいただけます(個人・法人問わず)。

※請求書等の書類・代金の支払はエスコアールとの直接取引となります。

お問合せ先 日本失語症協議会(03-5335-9756) エスコアール(0438-30-3090)



よくわかる失語症ことばの攻略本

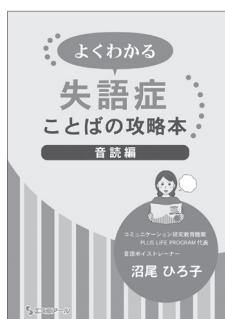
著：沼尾ひろ子

自信をもって会話がしたい・はっきりした言葉で話したいあなたへ

New 音読編

音声ペン対応

B5判 92頁 1,404円

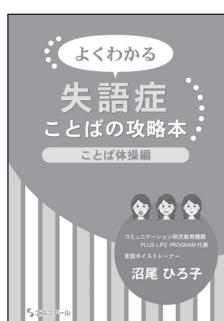


音声ペンでボイストレーナー
沼尾ひろ子による音声ガイドが
再生可能!!

楽しく音読の練習をするための文章テキストです。文字や文章を読んで、意味の理解をし、相手に伝わる声の出し方や表情豊かな表現を練習することができます。声を出して文章を読んでいくうちに滑舌の基礎が自然に身につき、さらに別売の音声ペンを用いると正しい読み方を音声ガイドで確認できます。

ことば体操編

B5判 98頁 1,620円



△ オールカラー／
イラストを見ながら楽しく
呼吸 体操 発声

日常会話はなんとか話すことができるが、自信を持って話したい……そんな失語症者にお勧めします。呼吸体操や変顔体操等、さまざまな言葉の体操をわかりやすく説明しています。失語症以外の、言葉に自信のない方にも取り入れていただけの体操です。

ActVoicePen (音声ペン)

アクトボイスペン

ペンでタッチするだけ！簡単言語訓練！

簡単操作

準備が簡単で、タッチするとすぐに音が出ます。

速度変更

発声速度を簡単に変更できます。

録音可能

短い単語はもちろん、長い文や歌も録音でき、
自作の絵カードが簡単に作成できます。

小型・軽量

長さ15cm×直径2cm、重さ32gと小型で軽量です。

外部接続

イヤホンやスピーカーの接続ができます。

特長



自作用シール 100枚付

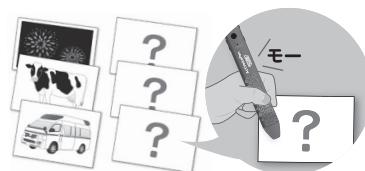
9,720円

2016年
11月
発売予定

環境音カード

②カード(A7サイズ)50枚 / イラストカード(A7サイズ)50枚 /
一覧シート(A5サイズ) / CD-ROM / 説明書 / 保管用ポーチ

4,860円



環境音カードセット

環境音カード / 音声ペン / 外部スピーカー 16,200円

ActCardイラストシート集S

第1巻

A4判 イラストシート30枚(イラスト300種類)
CD-ROM 6,480円

音声ペン対応製品

ActCard第1巻300種類のイラストを各シート10種類ずつ印刷してあります。別売の音声ペンでイラストをタッチすると音声が再生されます。

失語症者等に訓練を目的として使用する場合や、個人の方がご自身やご家族の言語訓練のために使用する場合は複写・印刷が可能です。

※複写や印刷したもののはActVoicePenに対応していません。ActCardイラストシート集第1巻(ActVoicePen非対応)につきましては、継続して販売しております。

訓練
絵カード

すうじ発音カード

企画・監修:鈴木和子 1,944円

改訂版 じゃんけん発音カード

企画・監修:鈴木和子 1,944円

改訂版 楽しく学ぶ日常生活絵カード S
作:石田さとみ 4,860円

構音(発音)指導のためのイラスト集

企画・監修:加藤正子 竹下圭子
B5判5冊セット 全232頁 7,776円

株式会社エスコアール

<http://escor.co.jp>
〒292-0825 千葉県木更津市畠畠 2-36-3

TEL:0438-30-3090
FAX:0438-30-3091



●上記の商品はホームページから送料無料でお求めいただけます。 ●価格は消費税込です。 ●内容や発売時期は予告なく変更になる場合があります。



水に混ぜるだけ! ゼリーが手軽に作れます。

水分補給に Quick Jelly

クイックゼリー

包装単位: 10g×36



アップル
味



ピーチ
味

「ひとつちめ」から
幅広く
サポートします。



はやい

水100mLに溶かして30秒間混ぜるだけ。
3~5分後にはさわやかなゼリーができ上がります。

水さえあれば、いつでもすぐに、食感のよいゼリーが召し上がれます。

かんたん

加熱や冷却が不要。
外出先でもベッドサイドでも手軽に作れます。



加熱調理や冷却のための時間がかかりず、作り置きスペースも省けます。

食べやすい

均質で飲み込みやすいテクスチャー。

離水がなく、温度による変化もほとんどありません。

テクスチャー: 硬さ・付着性・凝集性など
口腔内で知覚される
食品の物理的性質

カプサイシンプラス[®]

カプサイシンの力で食事を楽しく!

マンゴー味



特長

- カプサイシンは、トウガラシ(唐辛子)の成分です。
- 2枚で1.5μg(0.75μg/枚)のカプサイシンが摂取できます。
- 舌の上ですばやく溶けます。

使用方法

目安として2枚程度を口の中(舌の上)に入れ、
全部溶けたらお食事をお楽しみください。



包装: 24枚×10



販売者

株式会社 三和化学研究所

本社/名古屋市東区東外堀町35番地 TEL(052)951-8130 FAX(052)950-1861

●ホームページ <http://www.skk-net.com/>



編集後記

先日、とあるネットニュースを見ていた中で気になった記事。

「病気などで体を休めるのは安静、心を休めるのは休息。休息とは、自分の好きな事をしたりしてゆったりと過ごすことで、精神的な疲労も取れる」らしい。思い返せば、最近休息が取れてないなあと感じ、1日仕事を忘れて過ごしてみたら、翌日だるかった体もすっきり快調！！

休息って大切ですね。皆さんも良い休息を取って、日々のお仕事頑張ってください。

編集部 平山

発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田 浩滋

編集人:編集部 平山 淳一

事務局:〒263-0042 千葉市稻毛区黒砂2-6-15 メゾンK102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード:affordance

印刷:社会就労センター はばたき職業センター